

8. 広谷速人。关节软骨の形態と病態 1—正常关节软骨の構造と生化学一。整形外科 1975; 26(1):55.

9. 王祖武, 等。骨折愈合时软骨的形成和作用。中华外科杂志 1983; 2(10):591.

自拟复溃汤等治疗慢性非特异性溃疡性结肠炎 24 例

解放军三九四三八部队 亢荣华

一般资料 本组病例诊断主要依据慢性腹泻反复发作、排粘液脓血样大便, 经反复检查未发现特异性病原体, 直肠及乙状结肠镜检或钡灌肠检查有本病特征性病变。24 例中, 局部病灶的轻重均无选择性。男 21 例, 女 3 例; 年龄最大 64 岁, 最小 19 岁; 病程最长 30 年, 最短 1 年; 治疗前每日大便次数最多 22 次, 最少 3 次; 大便带脓、血者 14 例, 粘液便者 21 例, 腹痛泻泄伴有里急后重者 18 例, 左下腹隐痛者 13 例, 腹胀、纳差者 22 例。辨证分型, 肝旺脾虚型 8 例, 脾肾阳虚型 7 例, 湿热郁结型 4 例, 脾胃虚弱型 5 例。

治疗方法 (1) 复溃汤: 党参 12g 炒白术 30g 茯苓 20g 薏仁米 30g 青皮 10g 防风 20g 炒白芍 12g 炒谷、麦芽各 30g 盐故纸 4g 吴茱萸 4g 五味子 10g 巴戟天 12g 红丹参 10g。每日一剂, 水煎分 3 次温服。(2) 锡类散: 锡类散(中成药)、呋喃

唑酮(西药)混合研细粉分包, 每包含锡类散 0.5g, 呋喃唑酮 0.1g, 每日 2 次, 每次一包, 淡盐水送服。(3) 龟鹿二仙丸: 龟版胶、鹿角胶各 30g, 海螵蛸、地榆炭、白芨各 300g, 砂仁 20g。后四味共研极细粉末, 龟、鹿胶加入 750 ml 蜜糖内, 以小火煎煮, 待龟、鹿胶完全溶化后, 放温(约 20°C)时, 将其药粉合于蜜糖内做丸药, 每丸重 12g, 视病情每日 2~4 次, 每次一丸, 温开水或用复溃汤液送服。

疗效观察 临床症状消失, 大便镜检正常, 乙状结肠镜检粘膜病变恢复正常或遗留疤痕为治愈; 临床症状基本消失, 大便镜检正常, 乙状结肠镜检或钡灌肠仅有轻度炎症性改变为好转; 以症状、乙状结肠镜检及钡灌肠病变无大改变为无效。结果: 治愈 19 例, 好转 3 例, 无效 2 例。治疗时间最长半年, 最短者 38 天。

(上接 189 页)

5:174.

9. 江部洋一朗。瘀血と食物との关系。汉方の临床 1980; 27(4):211.
10. 藤田六朗。气血水病态生理からみ瘀血。东洋医学 1980; 42:72.
11. 山本岩。血症について。汉方研究 1977; 7:243.
12. 松本克彦。消化器疾患における気、血、水の生理。汉方研究 1982; 5:168.
13. 伊原信夫。“瘀血”に関連したものをあげる瘀血病理像を数多く例示。汉方医药 1974; 6:187.
14. 寺泽捷年。他。瘀血证の症候解析と診断基準の提議。日本东洋医学杂志 1983; 34(1):12.
15. 寺泽捷年。瘀血の診断基準及び臨床治療。汉方研究 1983; 6:191.
16. 永田勝太郎。他。瘀血状態における β -Thromboglobulin および Platelet factor 4 に関する研究—特にその診断的有用性について。和汉医药学会志 1984; 1(1):104.
17. 鳥居塚和生。他。瘀血病態における Fibrinogen Heterogeneity に関する研究 (第 1 報)。和汉医药学会志 1984; 1(1):52.
18. 樋口和子。他。桃核承气汤治験報告。汉方の临床 1983; 30(7):401.
19. 有地滋。他。汉方方剂“桃核承气汤”適応患者群の HLA 抗原。近大医志 1980; 5(4):291.

20. 有地滋。他。汉方医学的症候群である“桃核承气汤证”患者の血液粘度。近大医志 1981; 6(3):403.
21. 织田真智子。他。桂枝茯苓丸の赤血球変形能への影响。和汉医药学会志 1984; 1(1):102.
22. 村田高明。产婦人科領域における瘀血。汉方研究 1983; 6:193.
23. 张向渠译。祛瘀血药的凝血学探讨。国外医学中医中药分册 1983; 5(4):14.
24. 鷺忠人。他。ステロイド剤の血液性状に及ぼす影响と桂枝茯苓丸の改善作用。和汉医药学会志 1984; 1(1):50.
25. 林榮一。川芎の血小板凝集抑制に関する探討。内部資料, 1981.
26. 鹿野美弘。当归、川芎の生理活性。現代东洋医学 1981; 2(4):43.
27. 熊泽义雄。生药中の免疫応答調節物質。内部資料.
28. 小島保彦。汉方药とインターフェロン。インデューサー。汉方医药 1981; 5(4):9.
29. 田中郁子。他。汉方药が有効であつた难病の治験例(3)。汉方の临床 1981; 28(3):131.
30. 中村肇。他。赤芍の高分子性プラスミン阻害成分の部分精製。和汉医药学会志 1984; 1(1):98.
31. 岡本彰祐。他。凝固・線溶酵素の阻害に関する赤芍エキスと合成薬剤的相互作用の解析。和汉医药学会志 1984; 1(1):48.